

リサーチグループ登録届出書

平成 24 年 1 月 25 日

1. グループの概要

グループの名称	大気科学リサーチグループ
分野名	大気科学
設置場所	総研棟A207 専攻長室
設置予定期間	2012年4月1日から2017年3月31日

2. 研究代表者

所属・職名	生命環境系・教授
(ふりがな)	たなかひろし
氏名	田中 博 (印)

3. 連絡先

所属・職名	生命環境系・教授
氏名	田中 博
電話	029-853-4430
FAX	029-853-6489
E-mail	tanaka@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

4. 担当部局(当該グループの運営等を管理する部局名)

生命環境科学研究科 地球科学専攻

グループ名	大気科学研究グループ				
グループ名(英語)	Atmospheric Science Research Group				
分野	参考: 1. 人社系、2. 理工系、3. 生物系、4. 複合系のうち、該当の番号を記載してください。				2
科研費細目番号	主なものから順番に3つまで記載してください。				
キーワード(5つまで)	大気科学	気象学	気候学	大気環境学	地球環境
キーワード(英語)	Atmospheric Science	Meteorology	Climatology	Atmospheric Environmen	Global Environment
グループのHP:URL	http://air.geo.tsukuba.ac.jp/				
代表者名(英語)	田中博 (Hiroshi Tanaka)				
研究組織					
氏名	所属機関	職名(任期)	専門分野	学位	役割分担
田中博	生命環境系	教授	大気科学	Ph.D	グループ代表者
林陽生	生命環境系	教授	大気科学	理学博士	
上野健一	生命環境系	准教授	大気科学	理学博士	
植田宏昭	生命環境系	准教授	大気科学	博士(理学)	
日下博幸	生命環境系	准教授	大気科学	博士(理学)	
若月泰孝	生命環境系	助教	大気科学	博士(理学)	
グループ概要(100字程度)					
大気科学研究グループは、大気科学に関する深い専門性をもった研究者のグループで、様々な専攻・センターに所属する教員から構成されます。地球規模から地域スケール、数万年の気候変化から突発的な気象災害まで幅広い事象をモーラシ、水循環、生態系、計算科学、環境学などの分野とも密接に関係しつつ地球環境研究の一翼を担う研究活動を行っています。構成員は大気科学に関する様々な領域で国内外における一線級の学際研究を推進し、地球学類・地球環境専攻・環境科学専攻といった幅広い領域で教育活動を実線しています。また、大気大循環や気候システムに内在する大気海洋陸面相互作用について、古気候、異常気象などの気候変動、地球温暖化のタイムスケールで研究を実施する一方で、都市のヒートアイランド現象・ゲリラ豪雨・猛					
グループ概要(英語)					
Atmospheric Science Group consists of individual scientist whoes expertise is in general circulation, climate system, monsoon, land-surface interaction, meso scale convective system, urban climate, and heat island. We can contribute to the advancement of the basic science in the atmospheric science, including dynamic meteorology, thermodynamics, energetics, weather forecasting, climate prediction, field observation, and numerical simulations of various atmospheric phenomena. It is our goal to contribute to the society by promoting the global change studies related to the all spectrum in the atmospheric science.					
設置の目的及び必要性					
地球を取り巻く地球環境は時々刻々変化し、地球大気において生起する気候変動や異常気象は人間社会に大きな影響を及ぼしています。本リサーチグループでは、全球規模の気候形成から局所的な極端現象に至る様々な時空間スケールにわたり、運動する大気運動と気候変遷の素過程を明らかにし、過去から現在にかけた海洋・陸面の熱力学的影響を定量的に分析・モデル化し、将来予測に資する研究を推進します。本研究グループの成果は、将来の気象・気候変動に関する予測の制度向上や防災・自然エネルギー利用・都市気候対策といった分野への応用も期待されます。					
研究計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の原因を人為的温室効果ガスの増加と流体としての大気が内在する自然変動に起因する成分に分離する研究 ・大気大循環の3次元的なエネルギー流を解明する研究 ・高分解能の全球数値モデルおよび領域数値モデルによる大気諸過程の再現実験 ・都市のヒートアイランド現象・ゲリラ豪雨・猛暑などの都市気候の実態調査・要因解明・将来予測 ・メソ降水システムの観測、解析、理論、モデリングによる包括的な研究 ・チベットヒマラヤ域の降水陸面過程と中部山岳における山岳気象変動の解明 					
研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
<ul style="list-style-type: none"> ・近代の地球観測と数値計算技術に立脚した新しい気象・気候学の創造 ・グローバルな地球環境変動における大気プロセスの解明 ・大気とその境界領域としての海洋・陸域・雪氷圏との学際研究の推進 ・複数の国際プロジェクトをリードする共同研究の推進 ・学部から大学院まで体系化された共同教育体制に基づく優れた人材育成 ・大気科学の専門家として国際的に活躍できるグローバル人材育成 ・地球温暖化および気候学・気象学リテラシーの向上 					